



# 子どもに夢を暮らしに温もりを ～夢と希望あふれる大分県づくりに挑戦する前向き予算

大分県知事 広瀬 勝貞

米国の金融危機に端を発した経済危機は、日本経済にも深刻な影響を及ぼし、雇用情勢も厳しさを増しています。この未曾有の大不況からいつ抜け出せるか、その先行きは、まだ不透明です。こうした不況の荒波にのみ込まれないよう、そして少しでも雇用に展望が開けるよう、今年度は、まず県内経済活動を下支えすべく当面の景気・雇用対策に全力で取り組みます。そして「県民中心の県政」の視点に立って現場主義に徹し、県政のさまざまな課題に積極的に対応するため、引き続きおおいした挑戦を設け、「夢と希望あふれる大分県づくり」に挑戦する前向きな予算となるよう心がけました。

## 景気、雇用対策の充実

急速な景気の後退局面にあって、県内中小企業の資金繰りが心配されるため、中小企業活性化資金の新規融資枠を拡大しました。総需要喚起の観点からも、対策が急がれる県立学校の耐震化を二十三年度までの完了に向けて進めています。生活道路の小規模改築・修繕にも取り組めます。

また、雇用にも柔軟で思い切った対策を講じます。「ふるさと雇用再生特別事業」では、県内の企業やNPO法人等が地域の失業者を雇用する際に支援するなど、地域に安定した雇用機会を創出します。「緊急雇用創出事業」では、県と市町村で約千九百人の新規雇用を作り出そうと取り組んでいます。

## 子育て支援と暮らしの安心

子育て満足度日本一を目指して、子育て

て支援に積極的にチャレンジしていきます。そのためにも妊婦健診の公費負担の拡大や、周産期医療センターにコーディネーターを配置し、周産期医療の充実に努めます。父親の子育て参加などを進める企業のモデル的な取組みを支援し、ワークライフバランスを促進していきます。また、高齢者が健康でいきいきと生活していただけるよう、社会教育総合センターでは生涯を通じた学びを支援します。介護予防の取組みも重要です。高齢者宅への戸別訪問や、効果的な介護予防に取り組むため、地域の指導者を育成します。

今や新型インフルエンザは世界の脅威となつています。タミフルを追加備蓄し、拠点病院に人工呼吸器等を整備し、医療機関の受け入れ態勢を整えます。

さらに、人口減少と高齢化が続く小規模集落の機能維持のため、集落応援隊の活動を支援し、市町村が行うモデル事業に助成をします。

## 子どもたちの挑戦や自己実現の支援

教育については、学力の向上、豊かな心の育成、文化・スポーツの振興を主眼に施策を進めます。小中学校では、学力向上に取り組み市町村に教員を加配したり、「学びの教室」の運営に助成し、地域の協力を得ながら積極的に支援します。昨年「チャレンジーおおいした国体・おおいした大会」の成果を引き継ぐことも大切です。障害者スポーツの指導者人材育成バンクを創設し、競技団体に派遣するなど、各競技団体の活

動を支援していきます。

## 産業の底力発揮に向けた支援

先行き不透明な不況時ですが、こういうときこそ、IT導入は地場企業にとつて必ずや経営革新の手段となります。このため、民間のITコーディネータを活用し、普及啓発から導入まで総合的に支援していきます。新しいニーズに即した技術開発に向けても、地場企業の参加を拡大し、新たな製品化を図っていきます。

また、食の安全志向の高まりを背景に、企業の農業参入が活発化しており、昨年度県内で参入を決めた企業は三十社に上りました。農林水産業産出額二千億円の達成に向けて、今後も企業誘致や集落営農を着実に推進し、力強い経営体の確保・育成を図ります。そのため、県域流通品目などの京阪神市場出荷に向けて、新たな物流システムを構築します。

今年度予算は、平成十六年度から五カ年計画で取り組んできた「大分県行財政改革プラン」の成果を踏まえつつ、「安心・活力・発展プラン2005」のさらなる推進に向けて、新たに策定した「大分県中期行財政ビジョン」を着実に実行するために必要な施策、経費への重点配分に努めました。行財政改革による着実な成果はあったものの、県財政は依然厳しい状況です。今後三年間の施策を進めるにあたっては、一層の「選択と集中」に徹底し、夢と希望あふれる大分県づくりに向け、取り組んでいきたいと考えているところです。